

「夫（ぶ）の精神（こころ）」再生プロジェクト
牧畑（まきはた）がつなぐ人と人 ～「夫（ぶ）の精神（こころ）」に学ぶ～

西ノ島町立中央公民館

1 西ノ島町立中央公民館の概要

島根半島の北東約 6.5 km に位置する西ノ島町は昭和 40 年代から 60 年代にかけて漁業・畜産の町として発展してきた。しかし、昭和 25 年には 7,500 人いた人口が 3,200 人まで急激に減少した。高齢化率は 38% までに達している。町内には 15 の地区があるが、端々の集落では商店の無くなった地区もあり、大変不便な生活を強いられている。

西ノ島町立中央公民館は、所在する浦郷地区を中心とした住民の交流拠点施設であり、多様な学習活動や学習機会、交流の場や学習成果発表の場の提供に努めている。しかし、周辺部の交通手段のない高齢者などは公民館を訪れることが困難なことも多く、事業を行う上で今後の課題となっている。

2 事業の概要

（1）はじめに

① 実証事業名 「夫（ぶ）の精神（こころ）」再生プロジェクト

② 実証事業のテーマ

牧畑（まきはた）がつなぐ人と人 ～「夫（ぶ）の精神（こころ）」に学ぶ～

③ 実証事業のねらい

島で生き抜くために考え出され、私たちの祖先が受け継いできた牧畑。その労働は、「夫（ぶ）」と呼ばれる共同作業によって成立してきた。牛馬を所有していない世帯でも草刈りや石積みの作業に参加し、牧畑から得られる恩恵を分け合って生活してきた。それは持続可能な循環型農法である。

私たちのまちを、これからも永遠に次の世代に受け渡していくためには、牧畑で培われてきた“夫（ぶ）の精神（こころ）”をもう一度見直し、若い人も男も女もこぞって、夢と笑顔のあふれるまちづくりに参加する必要がある。

少子・高齢化が進行する西ノ島町において、もう一度地元に向け、熱意ある人材を活用して学習の場を設け、西ノ島の魅力を再発見したい。これらの魅力は単に伝承者の誇りや生きがいのみにとどまることなく、広く町民がふるさとを愛し、守っていくことにつながる。それらはどれも、人と人との絆によって引き継ぎ、引き継がれてきたように、これからも夫の精神を醸成して定住人口を確保し、持続可能な地域社会の形成を目指す。

夫（ぶ）の精神（こころ）を中心に、縦の糸と横の糸とで人と人とをつないでいく。

ア 夫（ぶ）の精神（こころ）でつなぐ異世代交流（縦の糸）

子どものいない地区も増えてきた中、子どもからお年寄りまでを「夫（ぶ）」

の精神（こころ）」でつないでいく。さらに、町内の各種団体ともつないでいきたいと考える。

イ 夫（ぶ）の精神（こころ）でつなぐ地域間交流（横の糸）

町には15の地区があるが、小学校の統合によって、学校のない地区がほとんどとなった。このような、すべての地区の人たちを「夫（ぶ）の精神（こころ）」によってつないでいく。

（2）具体的な取組（内容、活動状況 等）

① 「夫（ぶ）の精神（こころ）」再生実行委員会（本事業の中心）

メンバー構成は、「牧畑を後世に伝える会」関係者、学校関係者、農協関係者、畜産関係者、観光関係者、放課後子ども教室関係者、学識経験者、事務局とする。

ア 組織を立ち上げ、支援強化をすることで他人任せではなくみんなで創り出すという意識の高揚を図るとともに、新たな学習の場としての牧畑を見直す。

イ 様々な立場の人が集まり、議論することによって地域力を引き出す。



「夫の精神」再生実行委員会

② 事業1 子どもと高齢者との交流

ア 昔のものづくり教室

- ・ 地元にある素材を使って、お年寄りから遊び道具や生活用具の作り方を学び、知恵を授かる。

イ 牧畑の恵みを利用して郷土料理を学ぶ

- ・ 牧畑がもたらす恩恵に思いをはせながら郷土料理を味わう。



たこづくり



もちつき



磯観察（箱めがねづくり）



磯観察（生き物しらべ）

③ 事業2 一般成人のための牧畑再発見教室

ア 自然観察会

- ・牧畑独特の植生を観察し、それらをもたらし隠岐諸島の地質学的特異性を理解するとともに、生態系や人間生活との関わりを考えるジオパークとして利用する。さらに、世界ジオパーク認定に向けて住民の意識の高揚を図る。



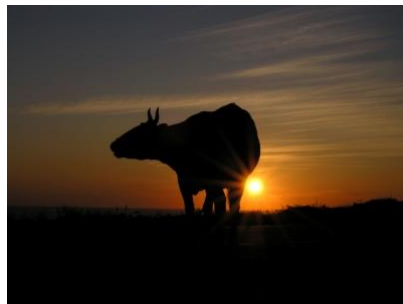
高崎山自然観察会

イ 郷土料理教室

- ・牧畑がもたらす恩恵に思いをはせながら郷土料理を味わう。

ウ 牧畑写真展

- ・産業文化祭において牧畑の美しい景観や本事業の活動の様子を写真によって町内外の方にお知らせする。



牧畑写真展 出品作品1



牧畑写真展 出品作品2

④ 事業3 小学校「西ノ島まるごと教材化活動」の取組支援

- ア 総合的な学習の時間における学習材としての牧畑を紹介し、ふるさと教育の充実に資する。
- イ 西ノ島町の基幹産業である漁業・畜産・観光についての学習を、牧畑が培ってきた人と人とのつながりの視点から支援する。
- ウ 世界ジオパーク認定に向けて意識の高揚を図り、ふるさと隠岐への愛着と誇りを持ってもらう。

⑤ 事業4 牧畑フォーラム

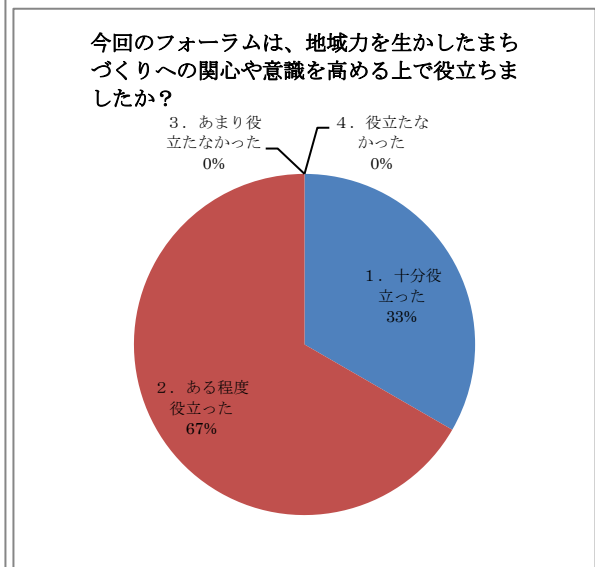
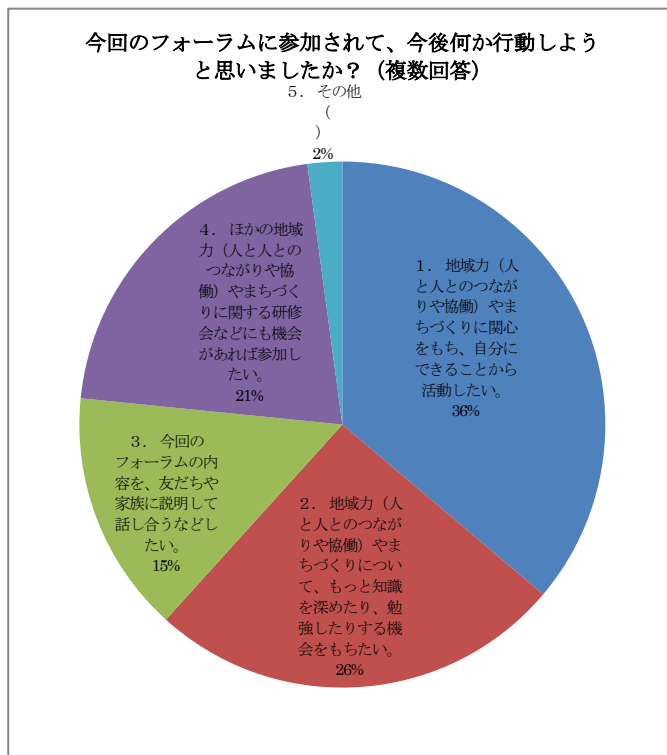
- ア 歴史的遺産としての牧畑を見直し、広くその価値を周知するとともに、本事業の趣旨についても理解を促す。



牧畑フォーラム（基調講演）



牧畑フォーラム（パネディスカッション）



3 事業の成果

- （1）地域住民の絆やつながりを、「夫（ぶ）の精神（こころ）」と名づけたことで、関係者に伝わりやすくなったこと。
- （2）公民館が行っていた既存の事業を「夫（ぶ）の精神（こころ）」で括ることによって各事業の目指すべき方向が明らかになったこと。
- （3）住民のまちづくり・地域づくりに関するやる気を把握することができたこと。
- （4）実行委員会を組織したことによって、これまでにない立場・視点からの提言・協力を得られたこと。

事業の課題

- （1）「夫（ぶ）の精神（こころ）」についてさらに多くの町民に周知していくこと。
- （2）住民のまちづくり・地域づくりに対するモチベーションをさらに高めるとともに、行動を起こしてもらうためのきっかけづくりをすること。
- （3）実行委員会の構成をより幅広くするとともに、それぞれの立場で実働的に動いてもらうための仕組みづくり

4 今後の方向性

地域住民の絆やつながりをねらった「夫（ぶ）の精神（こころ）」について、各事業を通じて参加者に周知するとともに、参加者同士のまちづくり・地域づくりのモチベーションを高める。

異世代間交流及び地域間交流事業については、町内に留まらず、島前地区に活動の場を広げるとともに、よりダイナミックな事業を企画することによって、新規の参加者を開拓していく。